

いわての民俗芸能

人々の長寿を願い、五穀豊穡を祈り、悪霊退散を神に願う民間の信仰行事に伴う芸能を民俗芸能と言います。自然界や神仏に祈りを捧げ、解決を願う手段として演じられたのが民俗芸能です。

民俗芸能の種類には「神楽」「大神楽」「念仏踊」「鬼剣舞」「鹿踊」「田植踊」「盆踊」「諸芸」などがあり、それぞれに特徴的なたくさんの演目があります。“北上・みちのく芸能まつり”では、「神楽」「鬼剣舞」「鹿踊」「田植踊」など市内の100余団体が街のあちらこちらでその芸を披露します。

そんなたくさんの芸のなかから、少しだけ北上の民俗芸能についてご紹介します。

鬼剣舞の由来

北上市の周辺で盛んな民俗芸能は、「鬼剣舞」です。正確には念仏剣舞の一つなのですが、仏の化身と言われる鬼のような面をつけて踊る様子から特に「鬼剣舞」と呼ばれるようになりました。

鬼剣舞の始まりは諸説あります。



- ① 大宝年間（701～704年）に修験の祖・役の行者小角が念仏を広めるために、念仏を唱えながら踊ったのが始まり
- ② 大同年間（806～810年）に羽黒山の法印・善行院が荒沢鬼渡大明神で悪霊退散・衆生済度の念仏踊りとして伝えられたのが始まり

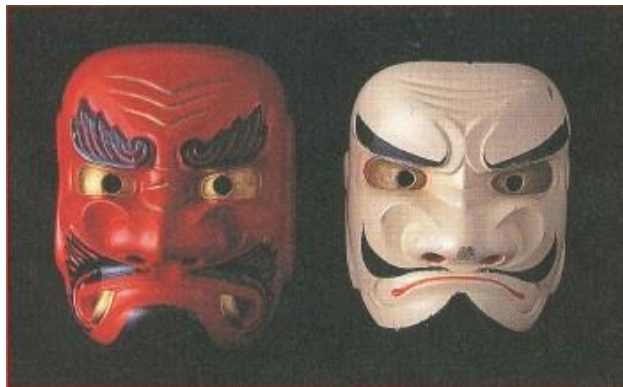
などなど…

鬼剣舞の装束と道具、面

踊り手の装束は細かく決められており、おおよそどの演目もこの装束を身に付けて踊ります。



鬼剣舞は通常8人で踊ります。白い面が1人、他の7人が青、赤、黒の「阿」「吽」の面をそれぞれにつけます。この4色の面は人々を救済する明王を表しているため、角はありません（鬼ではないので）。



演目

踊りの数は多くて 18 種目。通常は 12 種目が踊られます。



◇一番庭（礼舞）

念仏が入る格調高い全体的に穏やかな踊り。全種目の基本となる踊りです。

1	一番庭
2	一番庭の狂い
3	二番庭（八人踊）
4	三番庭（八人踊）
5	三番庭の狂い
6	刀剣舞（八人踊）
7	刀剣舞の狂い
8	一人加護（一人踊）
9	二人加護（二人踊）
10	三人加護（三人踊）
11	八人加護（八人踊）
12	ムギリ
13	宙返り（一人踊）
14	カニむくり（二人踊）
15	膳舞（一人踊）
16	カッカタの踊り
17	胴取りの踊り
18	狐剣舞（一人踊）

北上・みちのく芸能まつりには、100 を超える団体が参加しています。鬼剣舞だけではなく、神楽や鹿踊を披露する団体も参加していますので、ぜひお楽しみください。